

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院外来診療医担当表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	2診	総合診療 廣西		総合診療(循環器) 羽野	総合診療 廣西	認知症センター 廣西	総合診療(認知症センター) 廣西		総合診療(循環器) 羽野	
	3診	糖尿外来 河井		呼吸器 中西	泌尿器外来 稲垣(2-4週)	肝臓 佐藤 ※再診のみ	糖尿外来 河井			
	4診		皮膚科 神人 (第2週)	脳神経内科 梶本	脳神経内科 梶本		リウマチ膠原病 応援医師 (第2週)			
	新患5診	田端(佳)		岸本		応援医師		田端(康)		梶本
	外科診							櫻井 【第3週を除く】		
脊椎ケアセンター	6診	大岩	認知症センター 大岩		上野 【第1週】	大岩	大岩			大岩
	7診	整形外科 延與		整形外科 中川	足の専門外来 浅井(奇数週)	骨粗鬆症外来 寺口	整形外科 延與		整形外科 中川	
	8診	整形外科 原田		整形外科 寺口		整形外科 北山	整形外科 原田		整形外科 北山	
眼科	1診	小門	鈴木	岡田	岩西 雑賀 (前週) (後週) 山口 西 住岡 (前週) (後週)	永井	子ども外来 鈴木	鈴木	永井	岡田 術前外来
	2診			黄斑外来 (小門)						小門
小児科	青柳		樋口		青柳		青柳		青柳	
リハビリテーション科	隅谷		隅谷		隅谷		隅谷		隅谷	
	南方		南方		南方				南方	
検査	内視鏡		垣本 C F	白井		岡田 月1回 不定期			岡田 C F	
	エコー	浅江 心エコー				羽野 心エコー				

診察受付/月曜~金曜/午前8時45分~11時30分 ※第1週の水曜日午後は、加藤医師が救急対応
電話予約センター/0736-22-4600 (受付時間/月曜~金曜/午前8時45分~午後3時00分) 令和3年10月1日現在

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院通信



あじさい



vol.38
2021.秋号



現紀北分院(平成22年)



旧紀北分院(昭和30年)



紀北病院(昭和13年)

往古来今

「かるて師匠の健康高座」

分院長・内科教授 廣西昌也

紀子: いろいろ意見があったけど、オリンピックもなんとか無事に終わりましたね。
可流亭: 医療者としてはオリンピックの開催は多少疑問があったし、結局コロナの患者さんがいちばん多かった時期にオリンピックが重なってしまったんだけど、頑張っている選手を見ていると無条件に応援してしまうね。私自身は、むしろパラリンピックを見て感動していました。
紀子: オリンピックで記録に挑戦するのもすごいけど、いろいろ苦労したり、一時は絶望したりした方が、パラリンピックで活躍するまでの道筋を考えると、胸が熱くなりますね。ところで、私のおじいちゃんがオリンピックの年は肺炎がはやるから、コロナもそのせいだ、って変なこと言っているんです。
可流亭: オリンピックのせいで肺炎がはやることはないよね。オリンピックでコロナが増えたかどうかはうやむやにされているけど、どこかできちんと評価しないとイケないけどね。おじいちゃんはたぶんマイコプラズマ肺炎のことを言ってるんじゃないかな。
紀子: マイコプラズマ肺炎ですか。
可流亭: よくある細菌性肺炎とはちょっと症状が変わっているので、異型肺炎と言われていた病気です。昔は4年ごとに流行して、それがたまたまオリンピックの開催年と重なっていたので、オリンピック肺炎と呼ばれていたこともあります。
紀子: 今年もマイコプラズマ肺炎が流行ったのですか?
可流亭: オリンピックと流行が重なっていたのはソウルオリンピックがあった1988年までで、それからはマイコプラズマの流行とオリンピックの関係は崩れたといわれていますが、2015年から2016年にかけて流行したから、リオオリンピックとは重なっていませんね。
紀子: ちょっと症状が変わっているというのはどんな風に?
可流亭: とにかく咳がよく出るし、長く続くんだよ。喘息の症状を出す人もいますね。胸痛を言う人が多いこととか、人によっては中耳炎とか髄膜炎もおこします。あと、効果のある抗生物質が限られてくるので、培養検査をきちんとやって、正確に診断しないとイケない病気です。



【お知らせ】

- ・令和3年10月より、内科に田端佳世子学内助教が着任しました。
- ・次回の紀北分院通信「あじさい」冬号は●月発行です。

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 廣西昌也
〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066 (代) FAX0736-22-2579
ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>

2021年11月発行



【掲載内容】

- ・不整脈ってなに？危険な病気なの？
- ・世界骨粗鬆症デー
- ・感染対策のご協力への感謝とお願い
- ・外来診療担当表
- ・かるて師匠の健康高座



■ 不整脈ってなに？ 危険な病気なの？



内科
特別顧問
羽野 卓三

不整脈は比較的よくみられ、ほっておいて大丈夫なものから治療が必要なものまで幅広い病気です。そのなかで、脳卒中を起こす危険性が高い心房細動を中心によくある病気についての質問にお答えします。

Q1. 不整脈ってなに？

A1. 心臓は規則正しいリズムで打っていますが、通常より早く打つ場合は、期外収縮と言われます。脈が全く不規則に打つ場合は心房細動のことが多いです。心房細動には一時的に出現する発作性心房細動と継続する持続性心房細動があります。

Q2. 心房細動の原因はなんですか？また、頻度はどの程度ですか？

A2. 心房細動の原因としては心房弁膜症や甲状腺の病気があります。最近では、高血圧や加齢が原因のものが増えています。心房細動は60歳から増加し、80歳以上では約10%にみられます。

Q3. 不整脈は治療が必要ですか？

A3. 期外収縮の場合、多くは治療が必要ではありませんが、頻度が多かったり、運動時に多かったり、不整脈の波形が異なっていたり、不整脈のタイミングで危険性が高まる場合には治療が必要になります。心房細動の場合は、不整脈に対する治療とは別に合併症に対する治療や予防が必要になります。

Q4. 心房細動に症状はあるのでしょうか？

A4. 心房細動は症状が全くない場合も多いですが、発症直後には脈が多いことが多く、動悸が生じます。また、脈が速い状態を放置すると心不全になり、息切れや浮腫が出現します。最も危険なのが、心臓の中に血栓ができ、脳に飛ぶことで起こる脳血栓塞症です。このような原因でおこる脳梗塞は通常より梗塞範囲が広く重篤になります。

Q5. 心房細動による脳梗塞を防ぐためにはどうしたらいいですか？

A5. 脳梗塞発症の頻度は心房細動のない人の5倍と高いことから、血液をサラサラにする抗凝固薬が必要になりますので、主治医の先生とよくご相談ください。

Q6. 心房細動の治療にはどのようなものがありますか？

A6. 弁膜症や甲状腺の疾患などがある場合は、その治療が必要です。原因が明らかでないものは、心房細動を停止するには薬物投与、除細動、アブレーション(心筋焼灼術)があります。アブレーションはカテーテル治療で心筋の内面(肺静脈の周り)を焼灼し不整脈が出なくする方法です。心房細動では、原因精査、心不全の有無、心臓内の血栓の有無、左心房の大きさなどを確認した上で、治療の選択が必要です。

■ 世界骨粗鬆症デー



整形外科・
脊椎ケアセンター
講師 寺口 真年

当院で世界骨粗鬆症デーのイベントを開催しました!!

毎年10月20日は世界骨粗鬆症デーといい「骨粗鬆症(こつそしょうしょう)に対する正しい理解と治療予防法を学びましょう」というキャンペーンが世界中で行われるイベントです。骨粗鬆症とは「骨の量が低下し、骨の中の構造が変化することによって、骨が脆くなり骨折しやすくなってしま病病」と定義されています。超高齢化社会の日本は骨粗鬆症の方が約1300万人以上はいると予想され、予備軍も含めると日本の総人口の約10%はいる計算になります(女性の場合は6人に1人)。この先もどんどん増えていくと予想されるので、国民病とも呼べる病病と言えます。本年は骨粗鬆症リエゾンサービス委員会が中心となって、踵にて超音波を使用した骨密度検査、AGESといった老化物質の測定、薬剤師や栄養士による骨粗鬆症に関する相談、そして医師による骨粗鬆症の診断と治療の開始などといったイベントを行いました。多くの方に参加して頂いて、盛況の内に終わりました。

骨粗鬆症は診断で終わるものではなく、きちんとした知識を入れて頂き正しく治療を継続していく必要がありますので、今後も当院を中心として皆様に認知していきたいと思ひます。



■ 感染対策のご協力への感謝とお願ひ

看護部管理室 看護師長 田中 治美
(感染症管理認定看護師)

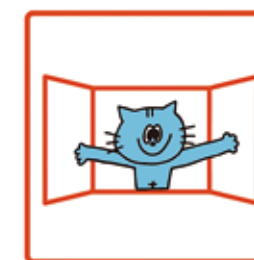
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が発生してから、丸2年を迎えようとしています。マスク着用が定着し、ほとんどの施設で出入り口には、手指消毒用アルコールが設置されています。感染管理担当者として、皆様の努力には感謝しかありません。

そろそろ厳しい感染対策や自粛生活に疲れと嫌気が出ている方もいらっしゃると思ひます。「ワクチンをうったから大丈夫」という声も聞こえてきそうですが、テレビ等での報道でもあるように、ワクチン接種後の方でも感染されています。また、症状が無くても感染していることがあり、知らない間に人にうつしてしまっていることがあります。

冬場は、感染症が流行しやすい季節で、第6波が来るとも言われています。インフルエンザの流行もささやかれています。対策をしても、感染症にかかることはあります。私たち医療現場の人間は、感染症にかかってしまった方を精一杯サポートさせていただいています。ですから、皆様も、ここで気を抜かずに「手指消毒、マスク着用、飲食をする時は少人数・短時間で大声は避けて」の徹底をお願いいたします。自分の身を守りながら、大切な人も守ってください。



手を洗おう
#WashHands



換気しよう
#OpenWindow



近づかないよ
#KeepDistance